

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター(NCNP)主催

# 第7回 NCNPメディア塾

## 受講生募集のご案内

2021年8月20日(金)開催

脳とこころの問題と  
社会のあり方を考える

精神・神経領域における最先端の研究や取り組みを学び、  
第一線の研究者や医師たちとジャーナリストが熱く交流する「NCNPメディア塾」。  
第7回となる今年は、オンラインによる開催です。講義とディスカッションを合わせた  
プログラム構成で、社会的関心の高いテーマについて立体的な情報交換の場を目指します。



国立研究開発法人

国立精神・神経医療研究センター

National Center of Neurology and Psychiatry

## ジャーナリストとNCNPの共創の場

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター(NCNP)は、精神・神経・筋の疾病・発達障害の克服を目指すナショナルセンターです。最先端の医療と研究に取り組むとともに、信頼性の高い医療情報を国民にお届けすることを使命としています。

「NCNPメディア塾」は、医療の取材・報道をされるジャーナリストの皆さまに精神・神経領域の取材を行うときに理解しておくべき最新の専門的かつ基本的知識を学んでいただき、国民の求める医療報道のあり方を第一線の研究者・医師と共に考える場として2014年に始まり、今年で7年目を迎えました。

今年のNCNPメディア塾は、コロナ禍におけるメンタルヘルス研究の現状と課題、ゲノム編集技術を用いた先端研究と近未来医療への応用、アスリートのメンタルヘルス研究の国内状況と海外での取り組みの紹介、発達障害の一つである注意欠如・多動症(ADHD)の理解と支援に関する講義を予定しております。また、講義の後はフリーディスカッションとして、講義を担当した講師と議論をする場を設ける予定です。

今年も多彩なカリキュラムを通して、ジャーナリストの皆さまとの意見交換の場を創造します。皆さまのご参加をお待ちしております。

### ● 募集要項 ●

#### 対象者

- 医学・医療情報について継続的な学習を希望し、広く一般の方に向けて情報発信されているテレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社などの記者、ジャーナリスト
- 取材経験3年以上の方

#### 講座概要

日 程：2021年8月20日(金)  
時 間：13:00～17:25  
定 員：50名  
開催方法：オンライン  
料 金：無 料

#### 申込方法

参加ご希望の方は、こちらのURLまたはQRコードから申込みフォームにアクセスし、お申込みください。

**URL** [https://zoom.us/webinar/register/WN\\_iViDcBC2ThiHvDdTbq27lQ](https://zoom.us/webinar/register/WN_iViDcBC2ThiHvDdTbq27lQ)



## NCNPとは?



### 研究と医療が一体となった国立高度専門医療研究センター

#### 〈基本理念〉

病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患、および発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る。

はじめに

13:00~13:05

理事長：中込和幸

講座

13:05~16:20

講義 1  
13:05~13:50

**コロナ禍でのメンタルヘルスをサポートする  
非接触型のシステム構築**

講師：中込和幸

45分 (30分講義+15分質疑応答)

COVID-19によるパンデミックの前からメンタルヘルスサービスへのアクセスは、偏見等が障壁となって不十分でした。さらに、パンデミック後には、感染予防対策のため医療機関におけるサービスは制限され、患者も感染リスクのためにアクセスを差し控える傾向が強くなっています。一方、自宅に閉じこもりがちな生活を余儀なくされるなど通常の生活習慣が失われ、さらには職場の倒産、失業なども重なって、国民は強いストレスに曝されています。ケアをする医療従事者の負担も大きくなっています。そこで、NCNPでは九州大学、名古屋大学、慶應大学、杏林大学と共同で、メンタルヘルスサービスを必要とする市民が適切な対応を受けられるようなシステムづくりに取り組んでいます。このシステムの概容と進捗状況について報告します。



講義 2  
13:55~14:40

**ゲノム編集の最前線**

講師：井上高良

45分 (30分講義+15分質疑応答)

今日の生命科学研究や先進医療の行く末は、もはや『ゲノム編集』というキーワードなしには語れません。私の研究グループでは、『マウスのヒト化』をベースとした疾患基礎研究体系に、2020年ノーベル化学賞の対象となった『CRISPR/Cas9を用いたゲノム編集技術』をいち早く取り入れました。そしてこの画期的な新技術と独自の発生工学的手法や遺伝学的解析法とを融合させることで、『国内屈指の疾患モデルマウス作出拠点』を確立するに至っています。今回は、そうした先端研究の現状と、近未来医療におけるゲノム編集技術の立ち位置や倫理的課題について、分かりやすく概説します。



講義 3  
14:45~15:30

**日本スポーツ界に求められるメンタルヘルス支援の現状とこれから**

講師：小塩靖崇

45分 (30分講義+15分質疑応答)

「アスリートは強靱な精神を備えている。心の病とは無関係」と信じられている場合があり、アスリート自身もそうあるべきと考えていることも少なくありません。スポーツ界では、メンタルタフネスやそのためのトレーニングが重視され、メンタルヘルスクエアについては見過ごされてきました。国際オリンピック委員会 (IOC) 等の国際スポーツ機関は、アスリートのメンタルヘルス支援策の開発、そのための教育・医療・研究への投資の必要性を訴える声明文書を発表しました。日本においては、具体的な支援策を検討するための基礎である実態把握もほとんど行われてきていない状況です。私たちは、日本ラグビーフットボール選手会をパートナーに、国内アスリートのメンタルヘルス支援策の開発に向けた研究を開始しました。当日は、これまで得られた知見や今後の取り組みについて紹介します。



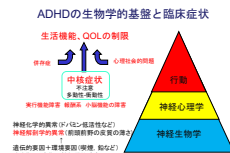
講義 4  
15:35~16:20

**注意欠如・多動症 (ADHD) であることは何を意味するか：  
診断と治療の課題**

講師：岡田 俊

45分 (30分講義+15分質疑応答)

ADHDは、小児期から出現する発達水準からみて不相应な不注意、多動性・衝動性によって診断される発達障害です。しかし、ADHDの子に特徴的な特性は、誰もが経験しうるエピソードでもあり、その違いは程度の差や困難を伴っているかに過ぎません。現在、小児の3~7%、成人の2.5%が診断されるという疫学研究がありますが、どこまでを障害と考えることが臨床的に、あるいは、病態からみて妥当なのかが問題になっています。コホート研究の結果から小児期から成人期まで継続して発達障害と診断されるケースが以前の想定よりはるかに少ないことも報告されており、適切な鑑別診断の重要性が指摘されています。薬物療法が実施される患者は、診断「可能」な患者のうちの10%にも満たないという結果からも、医療以前の学校、家庭での取り組みやペアレントトレーニングなどの心理社会的治療も重要になっています。一方で、ADHDにより多大な日常生活の障害を体験している患者も多いことから、ADHDの本態に迫り、その中核をなす脳病態を明らかにする研究が求められており、その現状についてもお伝えします。



ディスカッショントーク

16:20~17:20

60分

ファシリテーター1名 パネリスト3名

各セッションに関するポイントや、COVID-19の精神医療・神経疾患に対する影響等、最新の話題について、ジャーナリストの皆様を交えてディスカッションを行います。

おわりに

17:20~17:25

企画戦略室長：富澤一郎



**中込 和幸** [なかごめ かずゆき]  
*Kazuyuki Nakagome*  
理事長

1984年東京大学医学部卒、1995年に同大学で医学博士号を取得した。帝京大学講師、昭和大学助教授、鳥取大学教授を経て、2011年に国立精神・神経医療研究センター上級専門職、2015年より精神保健研究所長、2019年より病院長、2021年より現職。

専門：臨床精神医学、神経認知学、臨床薬理学



**井上高良** [いのうえ たかよし]  
*Takayoshi Inoue*  
神経研究所  
疾病研究第六部長

1991年京都大学理学部卒。京都大学大学院理学研究科にて博士(理学)を取得後、国立精神・神経センター神経研究所流動研究員、JST科学技術特別研究員、HFSP長期フェローシップによる2年間の米国 Stowers Institute for Medical Research 留学を経て、2003年より国立精神・神経センター神経研究所診断研究部長、2008年より現所属。東京農工大学工学部客員准教授を併任。

専門：神経発生生物学、分子遺伝学、発生工学、ヒト脳の進化と疾患に関する研究



**小塩靖崇** [おじお やすたか]  
*Yasutaka Ojio*  
精神保健研究所  
地域・司法精神医療研究部 研究員

1987年岐阜県生まれ。三重大学医学部看護学科にて地域保健学を学び、病院での臨床を経た後、東京大学大学院教育学研究科にて博士号を取得。2017年から国立精神・神経医療研究センターにて、若者のメンタルヘルス支援に関する研究に従事。学校でのメンタルヘルス・精神疾患に関する教育ツール「こころの健康教室サニタ」の開発に携わった。最近では、アスリート・医療・研究の協働で進める研究プロジェクト(よわいはつよいプロジェクト)の研究代表者をしている。若年層が健康かつ幸せに育つ社会を目指して、研究と実践の橋渡しに取り組んでいる。

専門：精神保健学、健康教育学



**岡田 俊** [おかだ たかし]  
*Takashi Okada*  
精神保健研究所  
知的・発達障害研究部 部長

1997年京都大学医学部卒。京都大学医学部附属病院精神科神経科助教、同デイケア診療部院内講師、京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)講師、名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科准教授を経て2020年4月より現職。

専門：精神医学、児童精神医学



お問い合わせ先

**NCNPメディア塾事務局** 担当：荒木・青木(株式会社ココノッツ)

TEL：03-5212-4888 050-1741-7009 FAX：03-5212-4887 E-mail：mediaseminar@cocoknots.co.jp

NCNPメディア塾ホームページでもお知らせします ▶ <https://www.ncnp.go.jp/press/mediaseminar.html>